



Institut Franco-Japonais du Kansai



講演会

## オランプ・ドゥ・グージュ ～ 18世紀後半のヒューマニスト

### オリヴィエ・ブラン講演会

開会挨拶 : 京都大学 教授 富永茂樹  
『マリー＝オランプ・ドゥ・グージュ』邦訳紹介: 目白大学 教授 太原孝英  
司会: 京都大学 講師 エリック・アヴォカ  
通訳: 明治大学 講師 高瀬智子

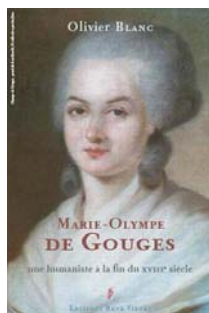
2010年3月12日(金) 18時

関西日仏学館 稲畑ホール

入場無料・通訳有り

オランプ・ドゥ・グージュ(1748-1793)は歴史の記憶の中で重要な位置を占める人物である。フェミニズムの先駆者として、女性の公的領域への参加や私的生活の条件に関するさまざまな権利を謳った彼女の輝かしい弁舌の数々に、私たちの負うところは大きい。彼女の主張は、フランス革命がその解放の手を差し伸べることを躊躇していた人々にも向けられ、植民地の奴隷や、ブルジョワジーによる民主主義によって置き去りにされた人々のものへと広げられた。

ひと時も手を緩めず、いかなる党派主義にもとらわれることなく、様々な形を通して表現された彼女の公共の利への情熱は、激しい讒謗の的となり、ついに恐怖政治によってかき消された。



革命期を専門とする歴史家であるオリヴィエ・ブランは、

『マリー＝オランプ・ドゥ・グージュ—18世紀末のヒューマニスト』の著者である。今回グージュのこの代表的伝記の邦訳出版にあたり、著者自らが非凡かつ悲劇的なこの女性の生涯について語る。行動する女性であったグージュは同時に啓蒙の世紀の文学者でもあった。グージュ、そしてブランは、革命の光と影について考えさせてくれるだろう。それは未だ完璧とはいえない私たちの民主主義社会の問題でもある。

この講演会は、東北大学(辻村みよ子教授、グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」と京都大学(落合恵美子教授、グローバルCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」)の協力のもと開催いたします。

関西日仏学館・ 606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8

Institut Franco-Japonais du Kansai • 8 Izumidono-cho Yoshida Sakyo-ku • Kyoto 606-8301 JAPON

Tél : +81 (0) 75 761 21 05 • Fax : +81 (0) 75 761 21 06 • www.ifjkansai.or.jp